

# みらいをつくる

発行：泉佐野市教育委員会  
教育部【2023年3月27日】

## 長南中学校「アンネのバラ」記念植樹 in 泉佐野市役所

みなさんは「アンネのバラ」をご存知ですか。

「アンネのバラ(Souvenir de AnneFrank)」は、第2次世界大戦中の強制収容所で、15歳という短い生涯を終えたアンネ・フランクの形見のバラです。戦後、「アンネの日記」が出版されると、自由と平和の大切さを願う言動が多くの人々に感動を与え、世界的ベストセラーとなります。アンネの父オットー・フランクさんは、娘の平和を願う心をこのバラに託し、世界中の人々に贈ります。その後、アンネのバラに託された思いに共感した多くの人々によって、更に世界中に広がっていききました。



長南中学校には、何年も前から校内にバラの木が一本植えられています。春と秋には、きれいなバラの花が咲きます。実は、このバラが「アンネのバラ」であること、バラの歴史や思いが込められていることを知った長南中学校の人権問題研究部の生徒たちが、数年前から平和の願いを込めて、ニュースをつくる等の活動を通して、発信しています。

また、学校に植えられていたバラの木から、挿し木をし、水やりを続け、時間をかけてバラを増やしました。1本だったバラの木が今では5本になっています。さらに新たに育ったバラの株を地域の施設やこども園、小学校にプレゼントし、広めていく活動を進めてきました。

この度、校内で育てたバラの株のうちの1本が泉佐野市役所に贈られることとなり、植木鉢から花壇に植えかえる「記念植樹」を2月27日(月)に実施しました。

植樹式では校長先生のあいさつに続き、人権問題研究部員からとりくみの発表・報告がありました。

「(中略)わたしたちはアンネのバラの挿し木をし、地域をアンネのバラがたくさん咲いている街にすることをめざして活動していますが、それはつまり、SDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」、16番「平和と公正をすべての人に」にあてはまる、ということに気づきました。アンネのバラを通して、だれもがありのままの姿で過ごせる街にしたい、それを目標にしています。差別のない、だれもが安心して住み続けられるまちをつかっていきたい。平和で公正な世界をつかっていきたい。その実現をめざして、わたしたちから行動を起こしていきます。」

土かけ・水やりの後、生徒代表からの誓いの言葉があり、最後に奥教育長より「ウクライナ侵攻から一年が経過してもなお解決できずにいます。みなさんの小さな行動が大きな力となります。これからの学校生活にも活かしてほしいです。本日は市役所に植樹していただきありがとうございます。大切に育てますね。」と、中学生へメッセージとエールが伝えられました。

発表の中では、「アンネのバラは、つぼみから散るまでに、色が変わります。つぼみの時は、深い赤色、花が開いたときには黄金色、散りぎわはピンク色になります。」という説明がありました。

これからどのように育っていくか、とても楽しみです。場所は庁舎横駐車場の通用口付近です。市役所にお立ち寄り際には、ぜひご覧ください。



## 救命救急講習を終えて

初任者研修で、救命救急講習を実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催できませんでした。今年度は初任者と2年目の教職員を対象に1回の受講者の人数を10名程度に制限して開催しました。

救命救急講習では、主に次の2つのことを学びます。

- ①心肺蘇生法とAEDの使用について
- ②119番通報と救急車の呼び方について

それぞれの対応の仕方や仕組みについての説明を受けた後、グループにわかれて人形や練習用のAEDを使ってロールプレイを行いました。頭では理解していても、実際に行ってみると思うようにいかないことがありました。特に、胸骨圧迫やAEDの使い方は、力の入れ方や装置の操作手順がむずかしく、戸惑っている受講者もいました。

学校では、宿泊や運動会、学校水泳などの行事があります。子どもたちが安心して学校生活や行事に参加できるように、救命救急講習で学んだことを生かしてチームワークで迅速に対応できるように日頃から備えていきたいと思っています。



## 幼児期からの子どもの体力向上について考えよう

泉佐野市体育実技研修会(兼 小学校体育担当者会)を実施し、市内のこども園・小学校から25名の先生方が参加しました。

当日は、泉佐野市体力向上アドバイザーを講師としてお招きし、運動領域における幼児期の学びと小学校教育(低学年)の円滑な接続に向け、実技を通して系統的な指導の在り方を学びました。

研修のスタートは、ラダートレーニングを中心としたリズム運動について学びました。そこでは、「道具があれば子どもたちは自然と運動できる。だからこそ、指導者側がどのようにきっかけを作ることができるかが重要である」というお話があり、遊びの中で学ぶ幼児期特有の考え方について学ぶことができました。

また、なわとび運動では、①縄だけを回す ②その場で跳ぶ ③エアなわとび ④縄を回して跳ぶ といったように段階的な指導を行うことで、運動が苦手な子どもたちにとっても安心して取り組むことができる指導方法を学ぶことができました。

参加した先生方からは、「マット運動やなわとびなど、どういう風に教えれば良いのか、とても参考になった。」「初めて小学校の先生方と同じ研修を受けることができた。同じことを学べけれど、年齢に応じて少しずつ変えていく方法が分かった。」「園で教えていた子が小学校でどんな風に過ごしているのかを聞くことができて良かった。」という感想もあり、実技指導だけでなく、こ・小連携においても深まったのではないかと感じました。

今回のような研修を行うのは初めてでしたが、学校・園という枠組みを越えた交流の中で先生方が学びあうよい機会となりました。

これからも、幼児期からの子どもたちの体力向上に向けて、子どもの発達段階に即した指導に対する理解が深まり、先生方が学びあえる場を持つことができればと思います。

